

平成30年度 白馬高校学校評価

【学校教育目標】
真理と正義を愛し、勤労と責任を重んじ、創造力と自主的精神に充ち、地域と国際社会に貢献できる個性豊かで心身ともに健康な人材の育成を目指す。
【重点目標(中・長期的目標)】
「白馬にしかない」学びの創造 ①地域と連携した全国モデルとなる学校協働運営体制を構築する。 ②地域資源を最大限に活用し、国際的な視野を持ち地域視点で行動するグローバル人材の育成。 ③基礎的な学力の定着と21世紀型学力の育成に向けた授業改善と授業力向上。 ④自らの生き方を主体的に意思決定し行動できる進路指導とキャリア教育の充実。
【今年度の重点目標】
「改善と創造」 ①地域提案を活かした学校づくりを進めるための連携体制の改善と強化。 ②効果的・積極的な情報発信と地域・小中学校との交流の促進による開かれた学校づくり。 ③コース制の特色を生かした探究的な学習活動の展開とカリキュラムの改善。 ④観光における地域・企業・大学と連携した系統的なキャリア教育の構築。 ⑤きめ細かな支援と相談体制の充実による安全・安心な学校づくり。

◎教育活動に関するもの

	評価項目	評 価 の 観 点	担当	目標・留意点(関係組織・評価方法等)	評価	達成状況と今後の課題
学習指導と教育課程	新教育課程の教育内容	新教育課程の教育内容は、生徒の進路実現に効果的なものであったか。	教育課程委員会	進路状況、資格取得状況等の結果に拠る。	B	第一期生が卒業し、進路実現を果たした生徒は多くいるが、実績・志望ともに進学が多い現状から、改めて教育内容等の精選が必要と考える。
		類型別選択制について、選択群の構成並びにそれに属する科目の配置及び内容は適切であったか。			B	各学年・両科とも進学志望が就職希望の生徒数を上回っていることから、それに伴って構成及び配置の再編成が必要と考える。
	各教科	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を高め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。	国語科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	生徒の実態に合わせ、授業を組み立てることができた。表現し、伝え合う力の育成という観点については今後も試行錯誤していく必要がある。
		授業編成の工夫や添削指導などを含むさまざまな補習を通して、個々に応じた基礎学力の向上を図ることができたか。また、言語能力の育成を意識し、対話(双方向)的な活動を行ったか。	数学科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート) 添削指導や補習等を年70日以上実施できたか。	B	どの授業においても電子黒板やタブレットを使用したり、グループ学習を実施した。添削指導や補習なども計画的に行い、成果を得た。
		習熟度別授業や選択授業、また放課後や土曜日の補習を通して、個々に応じた基礎学力の向上を図る。A L TとのT Tの授業や校外でのフィールドワークを通じて、生徒が生きた英語に触れ、英語を使うことの喜びや楽しみを見出せたか。	英語科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート) 補習を定期的の実施できたか	B	生徒の実態に合わせて基礎学力の補充を図ることができた。フィールドワーク等でアウトプットの機会を多く設けることができたが、方法に偏りがあるので検討する必要がある。
		日本と世界の地理・歴史および政治経済に関する基本的事項を理解させ、地域や社会に貢献できる態度を育むことができたか。	地歴 公民科	地域の課題および地域を題材とした授業を立案し、実施することができたか。	B	学校周辺の諸地域について、フィールドワークで地元の方にお話を伺ったり、自分たちで考えた疑問点を実際に聞きに行くことができた。
		「観光」にかかわる学習活動をさらに拡充させ、より魅力的で、より教育効果の高いものとするための研究をしたか。		新規に発案した企画、および、改善を加えた企画を2件以上立案し、実施することができたか。	A	高校生ホテルの企画実施、PBL・チームビルディングなどの視点を利用した新しい試みを実施し、検討することができた。
		基礎的な学力の要請は勿論、実験・実習・巡検を活用しながら自然科学への興味を育て、探求的な学習による言語活動を通して、発展的な学力の向上を図ることができたか。	理科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	朝ドリルや授業での対話を通じ、基礎学力を養成することができた。実習や巡検の目的をもう一度見直し、指導計画の再検討が必要である。
		運動の実践を通して、技能及び体力の向上と主体性のある調和の取れた人格の形成を目指す。一人一人が健康に関して認識を持ち、日常生活の中で、適切な意思決定や行動選択をすることができるようにする。	保健 体育科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	技術及び体力の向上を目指す生徒が数多く見られ、健康に関しても興味関心を持つことができた。
		生徒ひとりひとりの技能、技術の伸長を図ることができたか。完成した作品等が生徒に満足感、達成感を与えられているか。	芸術科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	どの教材にも興味を示し楽しく取り組む生徒が多い。技術面では個人差があるが対話を通して理解を深める指導を心がけている。表現法に多様性がありおもしろく感じている。
		自立した生活を送るための生活力を身につけるために、実験・実習を活用して授業展開を工夫し、生徒が主体的に取り組むことができたか。	家庭科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	実習に興味を持ち、積極的に取り組む生徒が多くみられた。より理解しやすい授業となるよう、ICTの活用を工夫していきたい。
		商業科目に興味を持たせ、資格取得を通じて、社会で使える知識・技術（スキル）を身に付けさせることができたか。	商業科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	資格学習をととして、基礎的なスキルを身に付けさせることができた。商品開発においては、なかなか良いアイデアが出ず考えさせる実習が行えなかった。
		情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能の習得と情報社会の特性を理解し、情報化の影の部分に対応し、適正な活動ができる考え方や態度を身につけることができたか。	情報科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	スキルに差があり、実習速度が速いと感じる生徒がいた。情報モラルでは、最新の情報を発信することに心掛けたことが好印象だった。
	総合的な学習の時間	「総合学習、白馬学」では、そば打ちなどのテーマ別学習や進路別授業(進路補習や資格取得講座など)を実施できたか。	総合学習委員会	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	文化祭、修学旅行、資格学習に向けた学習が実施できた。しかしテーマ別の課題解決型の授業までは実施できなかった
		「総合学習、白馬学」により、生徒が地域について理解を深め、個々の進路実現に向けて意識を高めることができたか。				

	評価項目	評 価 の 観 点	担当	目標・留意点(関係組織・評価方法等)	評価	達成状況と今後の課題
教務	教務	生徒・職員が安心感をもって取り組める環境整備を行う。	教務係	改善提案を２０件以上、行なえたか。	A	内規の改訂など、今年度の改善提案を概ね実行することができた。
		生徒に落ち着いた学習環境や機会を提供し、生徒の学力向上を図ったか。		授業時数の確保や7.12.3月の特別編成授業を通して、７割以上の生徒の学力向上を図ったか。	B	授業時数の確保のために、行事等の検討が必要である。授業アンケート結果から授業改善等の余地があると考えられる。
		地域やPTAとも連携し、地域や小・中学校などへのPRを活発化させたか。		HPなどによる情報発信、教員による中学校訪問・中高連携・小高連携授業を複数回実施できたか。	A	レポートチャンネルをはじめとする広報活動や地元中学校への訪問、総合発表会の参加などを行うことができた。
生徒指導	生徒指導	基本的な生活態度が確立されたか。	生徒指導係	８割以上の生徒が達成できたか。(服装、挨拶、マナー)	B	概ね良好であったが、複数回の指導でも改善されない生徒がいた。挨拶が以前より元気がない。
		健全な高校生活を送る(豊かな人間関係の形成及び問題行動の防止)ことができたか。		８割以上の生徒の評価が得られたか。	B	問題行動の数自体は前年に比べ減少している。問題行動に至らないモラルやマナーといった部分での意識が低いと感じられる。
		さまざまな機会を通して、交通事故の防止ができたか。		各種指導を実施できたか。(交通安全講話、自転車乗車指導、)	A	本年度は交通安全推進モデル校でもあり、警察の協力もいただき登校時の安全指導を行なった。
		さまざまな機会を通して、盗難の防止ができたか。		移動や集会のたびに声かけはできたか	C	HRでの呼びかけは行ってもらったが、想定外の被害が出る事案が発生した。
		生徒が安心、安全で学校生活を送ることができたか。		地域、保護者、生徒、職員等からの情報を活用できたか	B	盗難等も発生し、安心安全の確保は今一つであった。
進路指導	進路指導	生徒の志望や適性・学力などを正確に把握し、適切な情報提供を行い、進路決定までていねいに指導することができたか。	進路指導係	指導に対して７割以上の生徒が満足したか（最終学年生徒へのアンケートによる）。	B	3学年卒業時のアンケート結果で、72.7%の生徒が、進路指導に満足していた。
		生徒の希望と意欲に応じて、早い段階から進路目標を持たせ、普段の授業に加え模試や補習などを効果的に組み合わせた学習計画に沿って、戦略的な進路指導を行うことができたか。		指導体制を整え、生徒が目標に向かって学習を進めることができたか。	A	当初の目標に比べて、多くの四年制大学合格数を獲得できた。センター試験による国立大学前期合格を出すことができた。
	キャリア教育	組織的で系統的な教育活動を展開する中で、生徒の人生観・勤労観を養い、目標を持って意欲的に行動することを促せたか。		就業体験、企業見学、職業人講話など、様々な学習の機会を与えることができたか。	B	主に進学関係のキャリアガイダンスは当初の目標以上の効果があったが、就職については不足していた。
	学習指導	授業や公営塾との連携によって生徒の学習状況を把握し、基礎学力向上を目指した取り組み（模試や7時限補習など）を推進することができたか。		7割以上の生徒が学力向上を達成したか。(基礎力診断テスト結果)	B	日課変更を伴う7時限補習や基礎力テストなどの体制を確立できた。今後は更なる内容の充実が求められる。
		学校設定科目「代掻きタイム」や朝ドリルを通して、小中学校の学習内容の理解と家庭学習などの学習習慣の定着を推進することができたか。			B	年間を通じて25時間(毎朝10分)のドリル学習を行い、考査結果の向上が見られるなど一定の効果があった。

生徒会	生徒会活動	生徒が達成感を経験し、自信をつけるため、さまざまな場面で生徒に活躍の場を提供できたか。	生徒会係	7割以上の生徒が達成感を実感できたか(アンケート実施)	B	人の前に立つこと、人を引っ張ることの難しさに悩む生徒も多かったが、各活動を通して自信をつけ、成長する姿が見られた。
		生徒会の将来を考え、組織や活動方法の見直しを行い、必要に応じて改善できたか。		年2回の実績の点検	B	必要に応じて活動を見直すとともに、生徒会の組織のあり方について、生徒が主体的に議論する場面が見られた。
	文化祭	早い時点から、生徒主体で計画の立案を行い、充実した内容の文化祭を実施できたか。		7割以上の生徒が満足できたか。(アンケート実施)	A	生徒が主体となり準備、運営を行うことができた。来校者も千人を越え、アンケートでは9割以上の生徒が満足との回答をした。
	生徒の自主性	さまざまな機会を通して、生徒会活動に参加させることができたか。		7割以上の生徒が達成感を実感できたか(アンケート実施)	B	自主的な活動には個人差があるが、委員会活動や文化祭、新役員選出等の機会を通して全校生徒が参加者意識を持つよう働きかけた。
		ボランティアや国際交流などの公共的な面にも目を向けさせることができたか。		活動実績の点検	B	地域で行われる塩の道祭りやコンサートなどにスタッフとして参加し、奉仕の精神を養うことができた。
保健・環境	健康	健康についての意識付けができたか。	保健環境係	アンケートを実施し、その評価に拠る。	B	健康管理についての相談活動を中心に行なうことができた。薬物乱用防止教育では8割の生徒が薬物の怖さを理解し、誘われた時の断り方を考える機会が持てた
	環境	学校内外の安全点検を実施し、その対策と安全確保ができたか。			B	日常の巡視による点検を実施できた。学校薬剤師の助言により改修を進めることができた。
		校舎内外の美化に努め、学びの場としての環境づくりができたか。			A	10・11月に外掃を計画した。また、ボトルキャップ約50k gをエコキャップ運動に参加協力できた。
生徒相談	特別支援教育	発達障害や不登校生徒へのカウンセリングや支援相談が適切に行えたか。またそのような生徒を支援するための校内体制は整ったか。	相談係	支援体制の見直しを行う。教職員対象の研修会を年1回以上行ったか。	B	支援態勢の改変は行っていないが、現体制が効果的に機能するよう横の連絡を密に行った。職員対象の研修会は2回実施した。
1学年	学習面	基本的生活習慣を身につけさせるとともに、基礎学力の定着と学習意欲の向上をさせることができたか。	1学年	7割以上の生徒が達成感を実感できたか(アンケート実施)	B	考查、模試、基礎力診断テストの結果を基に、基礎学力の不足している生徒を中心に定期的に指導を行い、少しずつ成果が出ている。アンケートの結果、授業に集中し、意欲的に取り組んでいるという生徒が8割と高かった。その反面、学力差の開きが顕著になっている部分もあるため、基礎学力の定着を目指して継続して指導していきたい。
	進路指導	進路保障につながるよう、系統的なキャリア教育のプログラムを活用し、様々な体験をすることにより、進路選択の幅を広げさせることができたか。		7割以上の生徒が達成感を実感できたか(アンケート実施)	B	外部、他学年と協力し、進路の日、進路ガイダンスなどを実施し、情報の提供に努めた。学年進路ホームルームを実施し、進路実現に向けての意識を高めることが出来た。
	特別活動	総合的学習の時間・白馬学において、地域、職業、進路について学び、将来について考える契機とすることができたか。		7割以上の生徒が達成感を実感できたか(アンケート実施)	B	就労体験や地域学習を通じて地域について学ぶとともに、将来の職業や働くことについて考える契機となった。今後はより具体的な進路に向けて学習を進めたい。
2学年	学習面	補習や公営塾等を積極的に活用し、基礎学力の補充, A O ・一般入試に対応できる力をつけることができたか。	2学年	7割以上の生徒が達成感を実感できたか(アンケート実施)	B	補習や公営塾を効果的に活用し、目的とする学力に到達した生徒が一定数いる一方で、補習を受けることや塾に行くことで満足してしまっている生徒がいたことも事実である。3学年に向けて、目的意識を高めていくことが課題である。
	進路指導	系統的なキャリア教育のプログラムを生かし、様々な体験をすることにより、生徒の進路選択の幅を広げることにはできたか。朝学習・補習を活用し公営塾と連携し、基礎学力の補充やA O ・一般入試に対応できる力をつけることできたか。		7割以上の生徒が達成感を実感できたか(アンケート実施)	B	進路の日や、進路ガイダンスにおいて、生徒の幅を広げる体験や情報は提供できた。試験段階であった朝学習は、生徒のモチベーションの継続に課題を残した。
	特別活動	総合学習の時間において地域について学び、学習に対する意欲を高めることができたか。台湾研修旅行を通して異文化理解を深めることができたか。		実りある研修旅行となったか。旅行後の生徒アンケート評価に拠る。	A	修学旅行後のアンケートで、8割以上の生徒が満足、概ね満足と回答し、特に現地学校との国際交流における満足度が高かったことから、よい異文化交流だったと考える。また、国際観光科の高校生ホテルの実績を始め、学年を通じて意義ある総合学習の時間を設けることができた。
3学年	学習面	高校での学習の集大成として、個々に選択した科目のみならず、必修科目においても積極的に、且つ意欲的に学習に取り組むことができたか。	3学年	アンケートを実施し、その評価に拠る。	B	生徒アンケートの結果、教科担当職員の取り組み状況について、満足およびおおむね満足と答えた生徒の割合は50％程度にとどまり、授業及び学級活動、特別活動ともに、十分な指導ができなかった。
	進路指導	系統的なキャリア教育のプログラムを生かし、そのサポートとして各種適性検査やガイダンス機能を生かすなどの実践により、適切なアドバイスをすることにより、個々の進路目標の確立・実現ができたか。		進路状況に拠る。	A	進路指導についての満足度は、アンケート結果で72％の生徒が満足と回答した。希望する進路について、ほぼ計画どおり達成できたと判断している。
	特別活動	総合学習の時間において、進路や自身のキャリアプランを考え、進路実現に向けて資格取得など必要な学習の成果を得ることができたか。		資格取得状況や進路状況に拠る。	B	進路指導結果は不可分な関係であるが、資格取得の面で十分に指導できなかったと考える。総合的な学習の成果ということであれば、概ね計画どおり達成できた。

	評 価 項 目	評 価 の 観 点	担 当	目 標 ・ 留 意 点 (関 係 組 織 ・ 評 価 方 法 等)	評 価	達 成 状 況 と 今 後 の 課 題
連 携	地 域 ・ 保 護 者 との 連 携	レポートチャンネルやHPを通して、学校の活動の様子や情報を地域に向けて積極的かつ効果的に発信し、その結果保護者や地域の方々の学校への理解が深まったか。	教務係	7割以上の保護者が満足感を得られたか(アンケート結果)	B	白馬高校への理解を深めることができた。
		白馬村内の小学校、白馬・小谷等の中学校、その他行政・企業や地域との連携を深めることができたか。	教務係	各種活動ができたか。(年2回の教員による中学校訪問、中高連携・小高連携授業を複数回実施など)	A	国際観光科生徒が地元中学校へ出向き学校説明会を実施した。白馬村副村長や小谷村元地域おこし協力隊の方から講演いただいた。
		学校設定科目・総合的な学習の時間・部活動等で、地域の専門家の援助を適切に仰ぐことができたか。	教務係	専門家による実績が前年度を上回ったか。(各教科・学年・部活動等)	B	グローバル講演会を2回実施した。また、授業においても外部講師をお招きして積極的に実施することができた。
		P T A総会・地区懇談会などを通して、保護者の方々との意見交換を充分に行うことができたか。	教務係 (P T A担当)	7割以上の保護者が満足感を得られたか(アンケート結果・地区P T A)	B	P T A総会・地区P T A懇談会を通して、保護者との緊密な情報交換ができた。だが、参加者の減少が進んでおり来年度は実施時期等の見直しをしていきたい。
		海外から来校する方との交流や海外留学等への参加により、国際交流をはかることができたか。	国際交流委員会	8割以上の生徒が満足感を得たか (アンケート実施)	B	国際交流機会3回8ヶ国から来校があり、普通科へも交流機会を広げたことにより、生徒の満足度も高かった。BSTとのホームステイ交流も2年目を迎え、次年度の新企画も成功させたい。
		強歩大会・しろうま祭・P T A作業等の学校行事にて、保護者・地域の方々と交流をはかることができたか。	教務係 (P T A担当)	各行事の参加状況が前年度を上回ったか。	A	強歩大会での豚汁ふるまいは、野菜の提供を呼びかけたところ、多くの方々から協力が得られた。しろうま祭では、生徒、保護者を始め地域の方々との交流を深めることができた。
管 理 運 営	安全・安心な学校づくり	生徒がいじめや体罰を受けることなく、安全で安心な学校生活を送ることができたか。	コンプライアンス委員会	いじめ防止のための指針を作り、体罰やいじめ、その他学校の安全と安心を脅かすことが起こらなかったか。 さまざまな機会を通して、生徒への指導や、いじめ・体罰の状況確認をすることができたか。	B	夏休休業中に職員研修会を実施した。また、学校生活アンケート（いじめ調査を含む）を各学期に1回ずつ実施し、情報を共有するとともに、聞き取りも行い、状況確認を徹底した。
	施設・設備	生徒がより快適な環境で高校生活を送ることができるように、施設設備の整備や拡充に努力したか。	事務	教務係・予算施設委員会	A	体育館屋根改修、生徒自ら行う環境整備等で環境整備が進んだ。
	校内研修	校内研修を定期的に行い、職員全体の意思疎通と共通認識を醸成するように努めたか。	教務係	生徒指導(人権教育)	A	6月、11月に職員研修会を実施し、生徒指導に関する共通認識を深めることができた。
		公開授業をお互いの授業を研究する機会と捉えて、積極的に研修できたか。	教務係	各教科で実施できたか。	B	公開授業日でしか実施できなかった。改善していきたい。